新報国製鉄が社名変更

新報国マテリアルの展望

材料開発で社会を変革

成瀬正社長

新報国製鉄は、きょう10月1日付で「新報国マテリアル株式会社」に社名を変更した。1949年以来72年間親しまれ、愛着のある前社名の「新報国」を受け継ぎつつ、「マテリアル」と組み合わせた。常に時代の一歩先を行く金属材料をはじめ、幅広い機能性材料を提供できる企業として、さらなる飛躍を目指す。成瀬正社長に社名変更への思い、中・長期施策などを聞いた。

――社名を変更するに至った経緯から。

「歴史をひも解くと、レアアースを手掛ける三徳と同じルーツである旧三徳工業が、特殊鋼製造部門として川越工場を設立。その後、三徳工業は川越工場向けの原料を製造していた秋田工場を閉鎖し、富山県で同様の原料を作っていた報国製鉄と川越工場が49年10月に対等合併して、新報国製鉄が発足した。よく普通鋼電炉メーカーに間違えられた経験があり、これまで何度も社名変更を検討してきたが、今回契機となったのは、2020年に発表された東京証券取引所の市場再編。当社はジャスダックに上場しているものの、22年4月にはスタンダードに鞍替えする。今まで以上に株主を大切にし、一般投資家へのIRを強化する必要があり、実態をより理解してもらわなければならない。その入口が社名。当社はシームレスパイプ用工具を手掛けるとともに、近年は低熱膨張合金を主力とし、耐熱・耐摩耗鋼やチタン合金、錫合金など多岐にわたる開発型の特殊合金メーカーとして着実に進化しており、事業の実態を表す社名に変えようと考えた。新社名は候補を選定した上で社員が投票し、社内外で愛着を持たれている『新報国』を残し、さらに一丸でまい進した構造改革とともに、先人達が築いた技術力に拠るところが大きい。小さな鋳物会社ながら研究部門を持ち、情熱を持って材料開発に取り組み、それを具現化してきた現場の力が『新報国』という言葉には宿っており、当社の精神的なバックボーンになっている。引き続き新報国ブランドを浸透・発展させる」

――中・長期ビジョンとして、新製品の拡販を打ち出しているが、今後の方針はどうか。

「半導体やフラットパネルディスプレー製造装置関連分野への依存度が高く、次の収益柱を育成するため、その他分野に対する新製品を開発・拡販する。耐熱・耐摩耗合金や、耐腐食新合金分野で塩素に強い耐腐食合金『EGNIS(イグニス)』を開発しており、ごみ焼却炉火格子、バイオマス発電ボイラー部品向けで市場に本格投入する。このほか、航空機やドローンなど次世代飛行体、空飛ぶクルマ向けなどで採用を目指すCFRP(炭素繊維強化プラスチック)成形金型向け低熱膨張インバー合金、天文・宇宙分野で試作が進捗中の耐低温ゼロ膨張合金、さらに固体燃料電池(SOFC)部品への使用に照準を合わせている高温域でも膨張しない熱膨張制御合金の基礎開発に成功した。これら新合金は最重要部品に使われることが多く、需要家の品質確認・認証が長期に及ぶため、3―4年後をめどに売り上げに結び付けていきたい」

――研究開発体制の強化にも注力している。

「20代、30代の若手研究者を中心に次々と新しい材質を開発している。近年は鋳造技術のレベルアップを図り、鋳造シミュレーションは湯流れ解析や凝固解析の高精度化を追求し、溶解技術の水準を高めている。また、誘導結合プラズマ分析装置を導入するなど、研究開発体制を強化した。高炉メーカー技術者OBや大学院修了者を採用したほか、社員の博士課程修了を進めるなど次世代を担う研究スタッフの育成にも力を注いでいる」

――製造現場における競争力向上はどうか。

「三重工場は若手を中心に温度や酸素、水素の管理を徹底し、鋳造シミュレーションを実用化に漕ぎ着けるなど飛躍的に品質を向上させている。今後は多能工化を推進することで、生産効率をさらに高め、人件費削減と外部委託作業の内製化につなげる。一方、溶解技術を改善することに伴う原料コスト削減や歩留まり向上をはじめ、溶解時間の短縮によるコストダウンや品質向上、納期短縮を目指していきたい。不良率低減も大きなテーマだ。過去5年間で発生した不良品の原因分析と発生防止対策を講じてきたが、これが各現場で定着しているかを総点検し、改善する」

――最後に中・長期ビジョンの実現に向けて、今後の意気込みを。

「引き続き研究開発体制の強化、製造現場の競争力向上、新製品の拡販などに取り組む。次世代を担う人材の育成にもより一層力を注ぐ。新社名を掲げ『社会のニーズに答えるだけでなく、材料開発を通じて社会を変える』と言う心意気で、次の飛躍を実現したいと考えている」(濱坂 浩司)

■会社概要

新社名	新報国マテリアル株式会社 (英文＝Shinhokoku Material Corp.)
資本金	1億7550万円
本社所在地	埼玉県川越市新宿町5―13―1
三重工場	三重県川越町大字高松字中島835―1
従業員	100人 (2021年9月30日現在)